

1. はじめに

今年のシカゴはまだそこまで寒い日がなく、ありがたいです。大体年末の最後の週で寒さの第一波が来るので覚悟はしています。卒業の見込みがたったのでゆっくりと実験する時間もなく、博士論文をまとめるいい時間だと思って頑張ります。

2. 研究

相変わらずの状況ですが、申請を出せばオフィスに行って実験をすることもできるようになりました。5年目に入り、もちろん授業ももう取り終わっているのも、そこまで致命的な不便さではないのですが、やはり普段の実験や日常の議論を通して研究を進めることができないのは少し研究留学の楽しさが減ってしまうかなと感じています。今年受験する、した方でシカゴのコロナ事情、学校、街の雰囲気など質問があればいつでもどうぞ。

今期もいくつか論文^{1,2}を出せましたが、ロックダウンになってから家にいて、論文を書くぐらいしかできないといい続けていた割にはそこまで効率的には進められなかったかなと思います。なかなか自分だけでペースを作るのは難しく、そのあたりのコントロールはいまだに試行錯誤中です。そのぶん、今まで時間がなくてできなかった新しいことに取り組めたのはよかったです。卒業のめどが立ち、博士論文も書き始めているのでそちらで取り返していければと思っています。博士論文審査会も年明けに予定しているのでこれから年末にかけて追い込み、最後まで気を抜かず無事博士号が取れるように頑張りたいと思います。

3. 就活について

詳しくはまた卒業が決まってから書ければと思っています。特にこだわっていたわけではありませんが、結果的にはアカデミアに残る形になりそうです。

日本、海外とも視野に入れていて、卒業するのが見えてきた段階で周りの人から声をかけていただいたケースが多かったです。もちろんそのあとに公募として審査、選考を受けました。個人や分野によることは間違いないと思いますが、進路を決める前から学会、ワークショップなどでつながりを広げておくのは非常に大



図 1 本当は今年ももっと旅行したかったけど、飛行機使うのも一苦勞なので車で近場のミルウォーキーへ。きれいな街で、いいリフレッシュになりました。

切だと感じました。以前の報告書で研究のコラボレーションについて書いたかもしれませんが、自分のやっていることと今後やりたいことを理解してくれている方を増やすことは自分とフィットするポジションに巡り合える確率を高めることにもつながります。就活だけが目的ではないにせよ早い段階から知り合いをたくさん作っておくのをおすすめします。

留学すると日本とのつながりがなくなるのではというのが学位留学の不安点として挙げられますが、自分から行動を起こしていけば十分に日本の学会ともつながりを作ることもできると感じました。国際学会で知り合った方のラボを一時帰国の際に、訪問させていただいたりして得たつながりから声をかけていただいたケースもありました。しっかりと自分から動いたうえで海外の経験を生かして差別化ができれば、日本のポジション獲得に向けた競争力にもなるのではないかと思います。

4. まとめ

大変な年になりましたが、制約がある中でもなんとかここまで進めて、卒業も見据えられているのは財団からの支援、そして財団を通じたコミュニティがあったからこそだと思っています。数か月後このページで無事に卒業報告ができるように最後まで気を抜かず、博士号取得に向けて頑張りたいと思います。

文献

1 <https://doi.org/10.1039/D0EE00838A>

2 <https://doi.org/10.1039/D0EE02490B>